

工法NAVIのご利用方法 — 地下探査技術編

工法ナビゲーションシステム運営委員会では、地下探査技術メニューをさらに改良しました。

地下探査技術には目的に応じて、「埋設物の探査」と「空洞の探査」と2つがありますが、目的が異なるため、地下探査の方法が異なってきます。そこで初めてこのシステムを利用する方にも、画面でこれらの地下探査の技術がイメージできるよう画面にフ

ローを表示するとともに目的に応じた調査が可能です。青字（クリック1部分）でリンクに飛びますので、例えば道路下の空洞調査を行いたい場合は、「地中レーダ」工法となり、車両を使用した「概略調査」と細かい内容を調査する「詳細調査」が可能であることが一目でわかるようにしてあります。

ぜひ皆さまお試しく下さい。

クリック
1

「地中レーダ法(手押型)」の工法概要を知るには、この青字（クリック1部分）をクリックしますと、イラスト入りの分かりやすい工法説明のページへ飛ぶようになっております。

簡単でわかりやすい



地中レーダ法(手押し)の概要が表示されます。

クリック
2

どのような機種があるかを検索するには、プルダウンを選ぶと「地中レーダ法(手押し)」の機種が選べるようになっております。

適用技術	地中レーダ法(手押型)
登録機種の選択	機種の選択 エスパー エスパー-21 エスパー-EK ユーティリティスキャンDF ユーティリティスキャンスマート グラウンドシアGN-02 チャーブレダ



地下探査の適用技術・地中レーダ法(手押型)		
適用技術	地中レーダ法(手押型)	
登録機種の選択	機種の選択	
機種の原理と概要	面的埋設物探査は、ある程度の広がりを持った面的な探査範囲を設定して、その中に存在する埋設物の埋設位置を調査するものである。調査結果は道路の維持管理や地下設備の新設スペース有無の確認などに用いられる。調査結果の表示は、最近では二次元画像表示だけでなく、三次元画像表示などの形で表示することも可能となっている。 	
目的区分	・線的埋設物追跡探査 ・面的埋設物探査 ・特定箇所埋設物探査 ・詳細空洞探査	
探査機の仕様	周波数	400~800 MHz
	探査深さ	1.0~5.0m 程度
	探査幅	約30~50cm/1計測
重量		